【別紙様式２】

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成

宇検村 立　　田検 中学校

全校生徒数	23名（男子　8名　女子　15名）		
全クラス数	3	教職員数	11
運動部活動数	4	運動部活動参加率	73%

取組時の課題と目的

1 取組時の課題

宇検村はバレーボールに対しての興味関心が高く，幼少期から触れる機会が多い。その反面，他の球技を経験する機会が少なかったためか，球技に対して意欲的ではあるが，苦手な生徒も多いことが課題である。

本校生徒は部活動加入率がH30年度83%，R1年度73%であり，加入生徒は運動時間を確保できているが，未加入生徒は授業以外で運動をする機会が少なく，学年が上がるにつれ，少しずつ体力差が現れてきている。

2 取組の目的

(1) 部活動未加入生徒に体力向上の場を設け，生徒全員でトレーニングやバレーボール以外の球技に親しむ場を設定し，体力向上や巧緻性，ボールコントロールの技術を身に付けさせる。

(2) 教科体育の中で様々な球技に触れさせ，総合的に体力を高める補強運動を導入する。また，「体力アップ！チャレンジかごしま」に取り組ませ，達成感や充実感を味わわせ，意欲的に取り組む姿勢を育成する。

取組の内容

1　朝の活動

(1) トレーニングの実施

部活動未加入生徒の体力向上と部活動加入生徒の日々のトレーニングの一環として，火・水・金の週３日，朝のランニング活動を実施している（月曜日は休養日として設定)。また，雨天時には体育館で学年ごとに「チャレンジかごしま」を行い，他学年や歴代の記録と競うことで回数も増え，積極的に取り組んでいる。

(2) ３年生への働きかけ

３年生は昨年に引き続き，年間を通じて体力向上に努め，運動に親しむ習慣を付けるために，今年度も全員参加としている。どの生徒も意欲的に取り組み，体力向上に努めている。

(3) 投力や巧緻性の向上

３年生や部活動未加入生徒も意欲的に取り組めるように，木曜日を球技の日と設定している。３年生が中心となりバレーボール以外の様々な球技に取り組み，生徒も木曜日を楽しみにして意欲的に活動している。

２　教科体育の取組

(1) 保健体育の授業の工夫・改善

学習カードやICT機器（タブレット)，学習ボードを活用することで，生徒が主体的に学び合う中で思考・判断させ，技術向上と深い学びにつなげている。

(2) 体力テストの分析と体力向上にむけての取組

年に２回，新体力テストを行い，それぞれの結果を基に，個人の体力の変容に気付かせている。また，運動への意識を高める要因にもなり，不十分な要素については，補強運動などで向上を図っている。

３　地域・家庭との連携

(1) 外部人材の活用

柔道の授業において専門的な指導と安全な実施のために，地域の少年団の指導者に協力をもらっている。

(2) 地域体育行事への参加

村民体育大会やバレーボール大会，完走歩大会などの行事に参加するだけでなく，役員等としても関わることにより，運動に親しむ機会を多く設定している。

●工夫したこと

1　３年生が積極的に参加できるよう朝の活動を工夫し，年間を通じて全学年で朝の活動が活発に行われるようにした。

2　授業でグループ活動を積極的に取り入れ，学習ボードやICT機器を活用することにより，言語活動の充実を図った。

3　運動有能感や受容感を高める活動を多く実施することで，部活動未加入生や運動が苦手な生徒が，運動をすることを肯定的に捉えられるようにした。

取組の成果

1　朝のランニング活動を継続的に行うことにより，１・２年生の体力の向上と３年生の体力を維持することができた。記録が伸びている生徒も見られた。

2　教科体育でICT機器や学習ボードを用いてグループ活動を積極的に取り入れることにより，課題解決に向けて主体的に取り組むようになった。

3　週１回，朝の球技活動を実施し，投力やボールを扱う能力の向上が見られた。また，昼休みも生徒会主体で計画を立て，様々な球技に取り組むようになった。

4　学校外で土日に運動する機会をもつ生徒の割合が，70%から90%に増加した。

今後の課題

1　教科体育をより充実させ，運動時間の確保と主体的に運動に取り組む工夫を継続していく必要がある。

2　生徒数が少ないため，より個に応じた体力向上プログラムを設定し，各自が補強運動や運動能力を高める内容を実施できるように検討する必要がある。

3　運動習慣の確立のために，家庭と連携を図る手立てを研究する必要がある。

本文：１行25字×42行　×２段

実際の取組１（朝の活動や生徒会の取組）

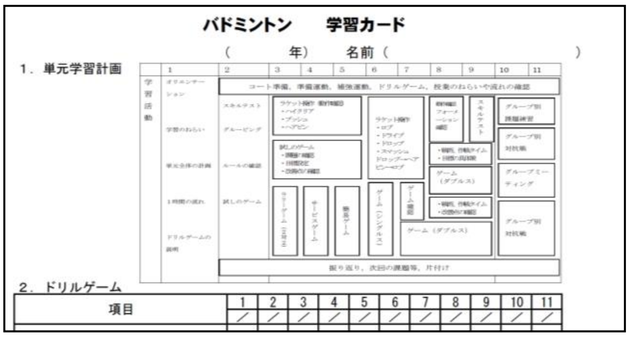
(1) 朝のトレーニング活動（火・水・金に７：３０～７：５０に実施し，体力向上に努めている。）

(2) 朝のトレーニング活動（木曜日に，球技を実施。様々な球技に親しむように実施している。）

(3) 雨天時の朝のトレーニング活動（「チャレンジかごしま」へ挑戦し，他学年や歴代記録と競わせる。）

(4) 昼休みや行事でのスポーツ活動（生徒会が企画し，全校生徒で実施している。）

実際の取組２（授業改善）

過程	生徒の活動内容	期待される効果と教師の手立て
授業前	・補強運動 ・ドリルゲーム 	・各種目に応じて必要な要素を取り入れた補強運動を実施させる。 ・自己の技能の高まりを把握させる。 ・ドリルゲームの記録更新により技能の向上の高まりを感じさせる。
導入	**目標の明確化** 【前時までの技能のポイントの確認と本時の目標の設定】 	・前時までの技能のポイントを振り返り，基礎練習でのスキルアップにつなげさせる。 ・本時で身に付けたい技能の明確化を図る。 ・運動を苦手とする生徒に対して，スモールステップで取り組むことができる場を設定するなど，意欲向上のための手立てをとる。
展開	**山場の工夫** 【言語活動の充実】 ・ＩＣＴ機器の活用 ・ＰＤＣＡサイクルの定着 ・グループでの目標設定と改善点の確認 ・グループの工夫 （毎時間の様々な組み合わせ） 	・ＩＣＴ機器を活用させることにより，客観的に技能やフォーメーションの確認と修正をさせる。 ・活動の活性化を図る。 ・目標設定と改善点を具体的に立てさせ，明確化を図る。 ・主体的な活動の促進と，グループ活動を通じた対話的な活動の場を設定する。 （グループの課題に応じた練習の選択や，話合いの場の設定） ・知識を整理し学習内容の定着につなげるためにホワイトボードを活用し，分かったことやできたことを書かせ，言語活動の充実を図る。 ・課題の解決に向け努力する中で，運動の楽しさや喜び，自己の技能の高まりを感じさせる。
終末	**【確かめ見届け】** 【本時の振り返り】 ・整理運動をさせながら，リラックスした状態でグループ間の工夫や，次時の取組について話し合わせる。 ・発表を通して自分の意見や考え，工夫した点を全体で共有する。 	・「めあて」の達成状況の記入と，自己とグループでの振り返りを確認させ，次時に繋げさせる。 ・グループでの活動を通して，他者からの評価やアドバイスにより，学習意欲の向上を図る。  【学習カード】